

1. 本園の教育目標

「心豊かな たくましい 子どもを 育てよう」⇒ふかえっ子の育成

<p>教育理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ 「おはようございます」 ・おもいやり「どうしたの」 ・かんしゃ 「ありがとうございます」 	<p>ふかえっ子の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気でのびのび明るい子 ・集団の中で自分を生かせる子 ・よく聞き よく話し よく考え 最後までやりぬく子 ・よく遊び創造する子
--	--

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果・取組状況	今後の課題
<p><教育目標、理念></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・思いやりの心を育てる ・身の回りの整理整頓 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者から率先して行うことを実践した。特に顔を見て挨拶することを意識して行ったところ、視線を合わせて挨拶する子が増えた。 ・身辺整理、整理整頓について視覚的な標示を増やし、入園当初より細かく伝え都度声を掛けるようにしたところ、子どもが意識して自発的に声を掛け合い教え合う姿が多くなり定着してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふかえっ子の姿を常に意識し保育者自身がその姿に近づけるように関わる。 ・他のクラス・学年の園児にかかわる気持ちを広げる。 ・身辺整理を自分で意識しより丁寧に身につくような指導をめざす。 ・進級、就学に向けた見通しのもと保育を行うとともに子ども理解をよりもう一步深める。
<p><特別支援教育></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修体制 ・家庭や関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な園内研修ができ指導内容が明確になったこともあり、自信を持って子どもや保護者と関わることができた。 ・記録を作成し、担任や補助担任そして預かり担当者等職員間で情報を共有し相互理解を深めることができてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家による研修を継続しより子どもへの理解を深める ・伝達研修を通じて研修内容を全職員で共有する。 ・個々のこどもの成長や取り組み等の情報を終礼等で共有し全職員で協力できる体制づくり。

<ul style="list-style-type: none"> ・職員配置や園内体制の充実 ・園内や保育室の環境設定 ・学級運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段はともかく特に行事前には保護者との連絡を密に行いうようにし、保護者と共に成長を実感し課題を共有することができた。 ・工夫した標示を保育室や園舎全体に増やしたところ、子どもによく伝わり、理解を促すことができた。 ・保育者が子どもの気持ちを汲み取り周りにも代弁し伝えることで、他児の関心や共感を得ることができクラスとして一体の運営ができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの子ども達の気持ちも汲み取りながら人間関係がより深まるようにクラス全体で話し合い保育を進める。 ・行事に対する園と家庭の思いや姿勢を一致させ望む。
<p><室内園庭環境></p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本に親しむ環境 絵本棚の設置と絵本の配置 ・絵本貸出しを行う ・室内環境の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や行事に合わせた絵本を保育室に配置し絵本への興味や関心が高まった。 ・そして絵本貸出機会を増やすなど家庭との連携をより充実することで子どもと絵本に親しむ環境づくりを行った。 ・子どもが集中して遊べるように室内玩具の見直しを行った。それに基づいて室内環境を整えて行くと、子どもがより落ち着いて過ごせるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き季節や行事に関する絵本の設置や補充を行い、読み聞かせの時間を確保する。 ・絵本棚の整理整頓について視覚的に明示し、整理された状態を維持する ・玩具等の片付け方を見直し、子ども自身が意識して自ら行えるような工夫をする。 ・季節に合わせた自然素材で遊べるような環境を各クラス平準化しながら設定する。 ・園庭での遊びを充実し運動能力の向上を目指す。
<p><食育活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じた野菜の栽培 ・成長過程への興味関心を深める ・季節や行事に合わせた給食献立 ・楽しんで給食を味わう 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々世話や観察する時間を作り、栽培手法を知ることで、子どもの興味や関心が高まり、野菜の成長を実感し収穫の喜びも大きかったようだ。 ・収穫した野菜や献立に合った食材であることを理解し、食べるものから季節を感じ食事を楽しむことができた。また提供される苦手な野菜も少しずつ克服することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より野菜の成長過程を身近に観察でき、色々な栽培手法があることに気づく。 ・学年に応じた内容により食べ物のもつ身体への力や働きを知ることができるようなプログラムを進める。 ・食に関する絵本を増やし、身近に手に取れるよう環境をより充実させる。
<p><健康、保健衛生管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対応 ・室内や備品等環境対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の拡大の兆しや嘔吐物への対応時に予防的な消毒を行った。 ・発生状況等情報を伝えながら拡大防止のための措置を取る等家庭と連携しながら対応を行うことができた。 ・手洗い方法やトイレ使用習慣の改善を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の持ちものの持参忘れについて、家庭とより緊密な連携を行い、何よりも子ども自身が意識するようにしたい。 ・嘔吐対応グッズをより充実させる。 ・子どもの健康状態を把握し職員間や保護者と共有する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の際にも嘔吐に備えすぐに対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い方法が課題となっていて検討を続ける。 ・プールの水質等の管理体制の見直しを行う。
<p><安全管理体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施 ・非常災害時への対応 備蓄準備 防災毛布、非常食 緊急引渡表作成 送迎コース安全確認 ・登降園時の安全管理 登降園時間管理 ひやりハット記録 事故報告書作成 ・園内環境整備 防犯カメラ設置 固定遊具や玩具の点検 園庭区分設定 ・園庭内視覚表示の設置 ・不審者等への対応について 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災、自信、不審者対応等の定期的な訓練に加えて、より現実的な訓練を実施し、避難方法も子ども中心に考えるようにした。 ・絵本等子どもに分かりやすい言葉を用いて避難の仕方や自身の守り方を伝えた。 ・緊急引渡表を作成し非常災害時の園児の引き渡し体制を作った。 ・各送迎コース沿いの安全点検と避難場所を確認した。 ・ひやりハットを記録し職員や子どもが危険を事前に予測し予防できるようになった。 ・園舎周りに防犯カメラの設置を行った。 ・園の設備や固定遊具の点検を行い改善に役立てることができた。 ・視覚的標示を増やし子どもが自分で危険を意識して行動できるようになった。 ・園庭にコーナーを作ることで危険回避に役立てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して避難訓練を実施する。園児自身が自らの命を守る方法を意識し考えるようにする。 ・戸外のあらゆる場所を想定した訓練を行い、対応について子どもや職員同士話し合う。 ・定期的な安全点検を行い、危険と感じる事例が生じた時は即座に対応し改善するまで見届ける。 ・送迎コースに変更があった際にも危険箇所や避難場所の再確認を行う。 ・子どもが自身で危険に気づき対応できるような意識を持てるように指導を行う。 ・緊急引渡表を作成し非常災害時の園児引渡し体制を作る。 ・ひやりハットの記録を行う。職員や子どもが危険を事前に予測し予防できるように役立てる。 ・園の設備や固定遊具の点検を行い記録する。 ・視覚的標示を維持し子どもが自分で危険を意識して行動できるように声がけを行う。 ・園庭のコーナーを維持し危険回避を継続する。 ・プール事故防止のための人員配置を確実にを行う。
<p><教職員組織></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間の情報交換と共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼や終礼を通じて子どもの情報を交換し、記録による他職員へ伝達を行い緊密な情報共有を行うことができた。 ・職員間での引き継ぎや打ち合わせ確認を徹底した。 ・行事等の分担仕事で職員同士の仕事を補い助け合うことができた。 ・学年でクラスの様子を振り返り自らの保育に活かすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼や終礼、記録を通じて職員間の情報共有を進める。 ・職員間での引き継ぎや打ち合わせ確認を行い徹底する。 ・研修等で学んだことを積極的に保育に活かしていく。 ・行事の他担任の仕事も含めて仕事を分担し職員同士の仕事を補い助け合う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と補助担任の打合せを行うが十分でなく課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と補助担任との打ち合わせの時間や日程を確保する。
<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事等園外活動と交流 ・行事への来賓招待 ・安パトの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会や文化まつり等地域の行事に参加する。 ・クリーンアップデーでは園の周辺や公園等へ出かけ地域の美化を意識することができた。 ・園外活動により地域資源に触れ、挨拶を交すなど交流することができた。 ・例年の敬老会や文化まつりへ参加し地域へ貢献する喜びを感じることができた。 ・入園式、卒園式や発表行事への参観と、もちつき大会への参加を依頼し園児と交流することで園教育についての理解と地域からの支援を得るようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加し、人の役に立つ喜びを感じながら、地域に貢献することを理解する。 ・計画での位置づけと園内の調整で園外活動の機会を確保。 ・園外活動の範囲を広げ、より積極的に地域との交流することで、子どもの関心を広げ保育活動に展開していきたい。 ・地域へ教育課程や園行事や保育日程を公表し、幼稚園の教育への理解を深めるよう努める。
<p><家庭との連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の信頼を得る ・個々の成長と課題の共有 ・伝達事項等職員間の情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時の声かけや電話により子どもの園での様子を伝えることにより保護者から信頼を得られるように努めた。 ・個人懇談で子どもの様子や課題を話し家庭と連携を図れた。 ・保護者への伝達事項は伝え漏れや間違いがないようにした。 ・クラスだよりによりクラスの様子や雰囲気伝えられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡が不足しがちな保護者を意識し園での様子を伝える。 ・クラスだよりはクラスの様子や雰囲気をブログと連動したり、学びに触れられるよう内容を深めるよう努める。 ・職員間で正確な情報伝達を行い保護者への連絡を行う。
<p><子育て支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て家庭との連携 ・未就園児親子登園事業 ・預かり保育と学童保育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや地域のブログにより園の様子を伝える事ができた。 ・保育終了後は在園児を中心に交流の場となっている。 ・土曜日地域ボランティアや園講師のワークショップが定着し未就園児親子の参加が増え、父子で参加し楽しむ姿みられる。 ・未就園児親子が幼稚園の雰囲気や教育についての理解が深まる機会や交流の場となっている。 ・学童保育については、季節に応じたプログラムも充実し参加者が増 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログはより即時性のある掲示を心がけ、子どもの成長を意識したものとなるよう努める。 ・園庭開放を継続し内容をより充実させることで未就園児親子の参加を促し、子育ての楽しさを実感してもらう。 ・特に乳児親子対象のワークショップの充実に努める。 ・学童保育についてデイリープログラムの充実を検討する。

	えつつある。	
〈その他〉 ・ 父母の会運営について	・ バザー収益より65周年記念事業として航空写真撮影を行った。	・ バザー模擬店の継続的实施を模索する。

3. 学校評価の具体的な計画の総合的な評価結果

新制度に入り3年が経過した。職員配置も充実してきたが、職員数の増加により職務分担も多様化し、職員間の教育理念や目標の共通理解、子どもについての情報交換や共有について、注意を向け工夫が必要となってきた。特に長時間の保育や長期休暇中の交替勤務による職員の情報の共有や伝達に課題が生じた。職員の意識や記憶に頼るのではなく、連絡や確認手段の平準化や共通フォームの使用等の工夫を行い課題解決のための体制づくりに努めている。

また長時間保育児の増加に対応し、個々の興味関心に応じた遊びが充実するような環境設定が大事であることへの理解が進み環境構成の改善が行われつつある。これについても視覚化するなど客観性をもたせ平準化できるようにして教育時間における学級での環境構成に反映させていく必要がある。

幼児教育は園と家庭が車の両輪で行われるものであり、父母の会活動を通じて地域の幼児教育に対する関心や理解が深まり、ひいては幼児の生育環境の向上につながる。またこのような活動を通じて保護者自身の気づきや経験が広がることを考えると父母の会活動は大変重要である。時代の状況に対応し、本来の目的に立ち返り、活動のスリム化を図りながら継続可能な組織運営を模索し維持できるようにする必要がある。

4. 学校関係者評価

卒園児や保護者など地域の有志による関係者評価委員会を運営。

地域からの園児の見守りの他、行事の見学や園児との交流会に参加して頂いて評価の根拠としている。

委員会では、園のアンケートと職員の自己評価が適正に行われていることを確認して頂いた。

5. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されている。